

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

評価責任者	所属	都市局
	氏名	局長 八木 清文

政策	4 多彩な交流と活動を支える交通環境の充実を推進します
政策の目的	【超高齢社会・低炭素社会に対応した交通環境への転換】 ○市民が主に利用する交通手段の半数近くが自動車です。 ○鉄道やバスなどの公共交通機関の利用者が減少傾向となっています。 ○超高齢社会への対応、低炭素社会の実現のため、自動車に頼らない交通体系の構築が必要です。

(1) 総合評価

評価	A：政策の目的が達成されている
理由	成果指標【公共交通や自転車で移動がしやすいと思う市民の割合】の評価は「a」であったこと、また、政策を構成する施策【拠点を結ぶ円滑な公共交通】、【公共交通が利用しやすい環境の充実】、【安全で快適に自転車が利用できる環境の整備】の評価は概ね「A」であったことから、総合評価は「A」とした。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
公共交通や自転車で移動がしやすいと思う市民の割合	32.1% (H30)	35%	33.4%	95.4%	a	現状値に対し、4年で約3%を増加させるよう、目標値を設置。
					—	
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

市民が主に利用する交通手段の半数近くが自動車であり、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用者が減少傾向となっているが、超高齢社会・低炭素社会に対応した交通環境への転換を図っていくため、自動車に頼らない交通体系の構築や、公共交通や自転車で移動がしやすい環境づくりを進めていく。

- ・持続可能な公共交通網の構築に向けて、地域公共交通網形成計画の進捗管理などを実施するとともに、MaaS実証実験の結果などを反映させる。
- ・山間地路線（安倍線等）のバス路線について、交通結節点の整備を含め、効率的な運行再編を推進する。
- ・自転車利用計画推進事業について、静岡市自転車サポーター認定者同士によるイベント開催に向けた支援を検討する。

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	拠点を結ぶ円滑な公共交通		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	S

施策2	公共交通が利用しやすい環境の充実		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策3	安全で快適に自転車が利用できる環境の整備		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	4 多彩な交流と活動を支える交通環境の充実を推進します
----	-----------------------------

施策	1 拠点を結ぶ円滑な公共交通
----	----------------

施策の目的	快適で質の高いまちの拠点や拠点間等の交通環境の充実により、新たな交流と活力を生み出し、活発な経済活動や安心・安全な市民生活の実現を目指します。
-------	---

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 交通政策課
	氏名	課長 杉村則久

（1）総合評価

総合評価	年度	評価	理由
総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	地域公共交通会議を開催し、すべての検討事項について承認を得たことにより、会議において目的や成果の共有化が図られたことや、静岡鉄道における駅周辺交通環境改善計画を作成し、成果指標を達成したため。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	地域公共交通会議を開催し、すべての検討事項について承認を得たことにより、会議において目的や成果の共有化が図られたことや、新駅周辺住民による「公共交通利活促進検討会」を発足し公共交通利用促進策を検討することにより、成果指標を達成したため。
	令和3年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	地域公共交通会議を開催し、すべての検討事項について承認を得たことにより、会議において目的や成果の共有化が図られたことや、鉄道利用者数の回復を図るため、利用促進動画を作成し啓発を図ったことにより、成果指標を達成したため。
	令和4年度	—	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	192,170	205,876	107%	a	
公共交通の利用者数 (1日平均乗車人数 ※乗車のみ)	201,059人/日 (H24) JR：97,715人/日 静鉄：30,278人/日 バス：73,066人/日		2	192,170	207,967	108%	a	
			3	192,170	207,192	108%	s	
			4	195,726	—	—	—	
			1					
指標以外の成果			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
総合交通計画の推進事業	地域公共交通会議を開催し、すべての検討事項について承認を得た。	1	1	614	0	614	1.8	0.0	0.0	○
			2	614	0	614	1.8	0.0	0.0	
			3	6,150	0	6,150	1.8	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
追分・大坪駅設置検討事業	(仮称)追分・大坪新駅の整備に向けた鉄道利用促進を目的とし、広く市民に対し、公共交通に興味をもってもらい将来に渡り公共交通利用を根付かせる為に鉄道利用を啓発し、モビリティ・マネジメントに関する取組みを促す広報動画を作成した。	1	1	3,495	7,981	11,034	1.0	0.0	0.0	○
			2	2,850	—	2,803	1.0	0.0	0.0	
			3	2,000	—	1,265	1.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
路線バス維持対策事業	路線バスの不採算路線に補助することにより、バス路線を維持し、市民の足となる生活交通を確保した。	1	1	437,976	0	437,879	1.5	0.0	0.0	○
			2	343,414	0	339,315	1.5	0.0	0.0	
			3	371,695	—	371,037	1.5	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	今後も持続可能な公共交通網を構築する必要がある	地域公共交通会議を計画通りに開催し、地域公共交通網形成計画の進捗管理および短期実施計画の見直しを実施するとともに、基本構想案の実現に向けて、関係機関との協議を実施し、今後のMaaS実証実験の結果等も反映させていく。
令和2年度	今後も持続可能な公共交通網を構築する必要がある	地域公共交通会議を計画通りに開催し、地域公共交通網形成計画の進捗管理および短期実施計画の見直しを実施するとともに、基本構想案の実現に向けて、関係機関との協議を実施し、今後のMaaS実証実験の結果等も反映させていく。
令和3年度	今後も持続可能な公共交通網を構築する必要がある	地域公共交通会議を計画通りに開催し、地域公共交通網形成計画の進捗管理および短期実施計画の見直しを実施するとともに、基本構想案の実現に向けて、関係機関との協議を実施し、今後のMaaS実証実験の結果等も反映させていく。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	4 多彩な交流と活動を支える交通環境の充実を推進します
----	-----------------------------

施策	2 公共交通が利用しやすい環境の充実
----	--------------------

施策の目的	利用者の安全性や快適性の向上を図るため、鉄道駅のバリアフリー化や超低床ノンステップバスの導入など、誰もが安全で利用しやすい交通環境の充実を目指します。
-------	---

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 交通政策課
	氏名	課長 杉村則久

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	理由
	A：施策の目的が達成されている。	JR由比駅のバリアフリー化を完成させ、バスについても、路線バスの不採算路線に補助することにより、バス路線を維持し、市民の足となる生活交通を確保した。また、交通弱者対策としても、支援するNPO法人の個別の地区への説明や、社会福祉協議会実施の運転ボランティア講座等での周知を行ったことにより、成果指標を達成したため。
	A：施策の目的が達成されている。	路線バスの不採算路線に補助することにより、バス路線を維持し、市民の足となる生活交通を確保した。また、交通弱者対策としても、支援するNPO法人の個別の地区への説明や、社会福祉協議会実施の運転ボランティア講座等での周知を行ったことにより、成果指標を達成したため。
	A：施策の目的が達成されている。	鉄道駅のバリアフリー化について、新型コロナの影響を鑑み、事業者と協議を実施し、事業スケジュールの見直しを実施したため、目標未達であった。しかし、路線バスの不採算路線に補助することにより、バス路線を維持し、市民の足となる生活交通を確保し、また交通弱者対策としても、実施地区を1地区増加させたことや個別の地区への説明等での周知を行ったことにより施策の目的は達成した。
	—	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	76%【13/17駅】	76%【13/17駅】	100.0%	a	
成果指標	バリアフリー化が必要とされている鉄道駅のうち実施されている割合	75%【12/16駅】	2	82%【14/17駅】	76%【13/17駅】	92.7%	b	
			3	74%【14/19駅】	68%【13/19駅】	91.9%	b	
			4	74%【14/19駅】	—	—	—	
			1					
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
指標成果以外の			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
鉄道駅バリアフリー化の推進事業	JR由比駅のバリアフリー化を完成させた。(R1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により静鉄古庄駅及びJR蒲原駅のバリアフリー化設備整備事業の実施を見送った。(R2) 静鉄古庄駅の詳細設計、JR蒲原駅の点字ブロック設置を実施した(R3)	1	1	42,000	10,485	45,106	1.0	0.0	0.0	○
			2	57,100	—	0	0.0	0.0	0.0	
			3	11,200	—	11,200	1.0	0.0	0.0	
			4	55,900	—	—	—	—	—	
鉄道軌道安全輸送設備等整備事業	鉄道施設の更新を促進することで、計画どおり事故はなく、市民の安全な輸送を確保した。	1	1	35,000	0	35,000	0.3	0.0	0.0	○
			2	35,000	0	35,000	0.3	0.0	0.0	
			3	35,000	0	16,472	0.3	0.0	0.0	
			4	35,000	—	—	—	—	—	
バス利用促進等総合対策事業	地域に適した効率的、効果的な地域公共交通の運行形態再編の検討を行った。 ノンステップバス等の導入により、バス利用の促進を図った。	1	1	10,700	0	10,451	1.2	0.0	0.0	○
			2	9,365	0	7,941	1.2	0.0	0.0	
			3	4,520	0	1,628	1.2	0.0	0.0	
			4	10,390	—	—	—	—	—	
地域交通弱者対策事業	個別の地区への説明や、社会福祉協議会実施の運転ボランティア講座等での周知を行い、実施地区の増加につながった。	1	1	4,000	0	1,630	0.3	0.0	0.0	○
			2	4,000	0	1,766	0.3	0.0	0.0	
			3	4,148	0	2,883	0.3	0.0	0.0	
			4	5,733	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	今後も市民の足となる生活交通の確保、安全な輸送の確保、交通弱者の移動手段の確保が必要	山間地路線（安倍線等）の効率的な運行再編を推進するとともに、制度を活用して老朽化の進んだ設備の更新等を促進し、交通弱者への生活交通の確保のため自治会等への周知を図るとともに、個別の地区への説明、支援を継続的に行っていく。
令和2年度	今後も市民の足となる生活交通の確保、安全な輸送の確保、交通弱者の移動手段の確保が必要	山間地路線（安倍線等）の効率的な運行再編を推進するとともに、制度を活用して老朽化の進んだ設備の更新等を促進し、交通弱者への生活交通の確保のため自治会等への周知を図るとともに、個別の地区への説明、支援を継続的に行っていく。
令和3年度	今後も市民の足となる生活交通の確保、安全な輸送の確保、交通弱者の移動手段の確保が必要	山間地路線（安倍線等）の効率的な運行再編を推進するとともに、制度を活用して老朽化の進んだ設備の更新等を促進し、交通弱者への生活交通の確保のため自治会等への周知を図るとともに、個別の地区への説明、支援を継続的に行っていく。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	4 多彩な交流と活動を支える交通環境の充実を推進します
----	-----------------------------

施策	3 安全で快適に自転車が利用できる環境の整備
----	------------------------

施策の目的	令和2年3月に改訂した「静岡市自転車活用推進計画」に基づき、「健康の増進」、「環境負荷の軽減」、「利用の促進」、「賑わいの創出」、「モラルの向上」、「プライドの確立」を基本目標とし、ハード、ソフト、マインドの各分野での施策（40施策）を実施することにより、「世界水準の自転車都市”しずおか”」の実現を目指すことを目的としています。
-------	---

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 交通政策課
	氏名	課長 杉村則久

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	理由
	A：施策の目的が達成されている。	計画通り自転車の魅力向上イベントを開催し、集客目標人数を達成したことや、計画通り自転車サポーターを25団体認定したことにより、成果指標を達成したため
	A：施策の目的が達成されている。	自転車の魅力向上イベントをコロナ禍に合った形式で開催したことや、計画通り自転車サポーターを25団体認定したことにより、成果指標を達成した。
	A：施策の目的が達成されている。	自転車の魅力向上イベントをコロナ禍に合った形式で開催したことや、計画通り自転車サポーターを25団体認定したことにより、成果指標を達成した。
	—	理由

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	953	664	143.5%	s	
まちなかにおける放置自転車台数	1,017台 (H30)	2	889	606	146.7%	s		
		3	825	805	102.5%	a		
		4	760	—	—	—		
		1	25	25	100.0%	a		
自転車公認サポーター認定企業・団体数	51団体 (H30)	2	25	25	100.0%	a		
		3	25	25	100.0%	a		
		4	25	—	—	—		
		1						
指標以外の成果		2						
		3						
		4						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
自転車利用計画推進事業	①サイクルラリー、キッズ自転車教室を実施し、846名が参加 ②自転車サポーターを25団体認定 ③静岡市シェアサイクル「PULCLE」の運営 ④自転車ウェブサイトの運営 ⑤自転車のりかたBOOKの配布	1	1	7,066	0	7,051	2.0	0.0	0.0	○
			2	8,447	0	5,966	2.0	0.0	0.0	
			3	7,107	0	6,415	2.0	0.0	0.0	
			4	6,751	—	—	—	—	—	
市営駐輪場及び市営自転車等駐車場の維持管理事業	①葵区、駿河区の14の施設管理 ②有料施設の定期券受付をインターネットで実施	1	1	298,728	0	297,775	1.0	—	1.0	○
			2	332,971	0	326,711	1.0	—	1.0	
			3	292,652	0	288,300	1.0	1.0	—	
			4	297,528	—	—	—	—	—	
放置自転車等の対策事業	①放置自転車禁止・規制区域での指導・撤去 ②市内中学1年駐輪場利用のチラシ配布 ③自転車区域マップ（静岡駅周辺）の英語訳作成	1	1	73,295	0	72,187	1.0	—	1.0	○
			2	70,286	0	66,744	1.0	—	1.0	
			3	68,720	0	64,432	1.0	1.0	—	
			4	67,985	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	・今後も「世界水準の自転車都市しずおか」の実現を目指した取り組みを実施する必要がある	・サポーター制度認定事業者のメリットとなるイベントの開催形態を検討 ・参加者層の拡大を目指す
令和2年度	・自転車の利用促進に比べ、ルールマナー啓発事業は伝わりにくく、事業に工夫が必要である。	・啓発本などを配布するだけでなく、対象者やその御父兄への説明の工夫を検討
令和3年度	・静岡市自転車サポーター認定者による連携を深めたい。	・市主催のイベント参加に加え、静岡市自転車サポーター認定者同士によるイベント開催に向けた支援を検討。
令和4年度	—	—